

北須磨病院が紹介されました

医療情報誌「頼れるドクター」 わたしの街のドクター 2022-2023 版



整形外科部長・脊椎・腰痛センター長
大久保 直規先生

1997年京都府立医科大学卒業。整形外科の先端医療に携わる高い専門性を持つ整形外科のスペシャリストとして整形外科の脊椎・腰痛部門をけん引する。日本整形外科学会整形外科専門医。

脊椎・腰痛部門

高い専門性を持つ医師4人が脊椎疾患に対応 手術室拡充でより高度な手術を提供

同院の代表ともいえる整形外科の「脊椎・腰痛部門」では、脊椎狭窄症、脊柱側弯症、骨粗しょう症性骨折などを専門として、最新の手術を実現する機器など最先端導入の手術室も整備し、手術件数を増加させている。

TOPICS

手術室を拡大大規模 機器やスタッフの拡充で体制強化

手術件数が増加の一途をたどる同院では、2020年の増改築時に手術室を2室に、広さを約4倍に拡大した。医療技術の進歩に伴う使用機器の増加や大型化にも対応可能となった。脊椎モニタリング装置、手術用顕微鏡、超音波造影切開装置など先端機器を導入。手術室専属のスタッフも増員し、さらに高度かつ安心・安全な手術の提供をめざす。



手術室では、低侵襲手術から高度な手術を行うまで幅広い患者の病態に合わせて対応可能

同院の主軸である整形外科は、平成25年に脊椎・腰痛専門部門を開設。高いニーズがありながら専門治療ができていた同院が、少ない脊椎疾患の、適切な診断・治療・手術を提供できる。現在、整形外科部長の大久保直規先生を含め、それぞれ高度な専門性を持つ脊椎外科医師4人が在籍している。

「当院では脊椎・腰痛部門に所属する4人全員が高い技術と知識を持って診療にあたっています。この規模の病院としては診療レベルが高く、皆さんに納得いただける治療を提供できていると考えています」と大久保先生。標準的な手術の知見を蓄積しながら、患者の病態や先天的な疾患に合わせた治療にあたり、内視鏡や顕微鏡を用いた低侵襲手術から、骨粗しょう症性骨折や変形性関節症に対するインストロル

メンテション手術まで、患者の病態に応じて適切な術式を選択している。常勤の内科医師が一人の主治医として診療に参加する体制を採っており、より安心・安全な手術を実現。またリハビリテーション科との連携にも力を入れ、医師がリハビリ担当者と定期的なカンファレンスを実施。進捗状況の確認や発生した問題点の共有の徹底など、密に連携を共有しながら患者の回復を促している。



波多野 希院長

1980年高麗医科大学卒業。同大学病院で研修を積み、千船病院、豊見城南中央病院などを経て2002年より北須磨病院に勤務。2005年より院長を務め、ともに医療法人社団常務理事も兼任。質の高い医療の提供をめざし努力を続けるスタッフを後押しし、より良い職場環境の構築にも努める。専門は脊髄・人工関節。日本整形外科学会整形外科専門医。

医療法人社団 北須磨病院

令和2年、全面リニューアルでより良い診療環境が実現 一般診療から高度手術まで、頼れる「かかりつけ病院」

理念をふれあいやさしさ、あんなしとし、開業医と連携した「かかりつけ病院」としての診療。また一部領域において大学病院等の診療を行う「北須磨病院」が、脊椎・腰痛の専門部門やインテグレート（人工関節）など、高度な手術に注力する整形外科をはじめ、内科、外科などの全医師が高レベルの専門性を発揮した診療を提供している。特徴的なのは、整形外科や外科の入院患者に対し、内科医師も診療に参加する「併診制」を導入している点。超高齢化が進む中、患者の病態に合わせた診療を提供する。令和2年には施設を全面リニューアルし、診療環境の向上が実現したと語る波多野院長。

「施設面の拡充が完了した現在、今後10年間はスタッフのクオリティを上げていく。さらなる先きを強力に推進していきま。職員一同、当院の理念と基本方針に則り、より良い医療をめざし向上し続けてまいります」



リハビリテーション科部長
藤原 聡さん

2006年、理学療法士として入職。医療分野、介護分野だけでなく予防分野に関するさまざまな業務を有し、幼児から高齢者まで幅広い年齢層のリハビリテーションに関わっている。神戸大学大学院保健学研究科博士課程修了。

リハビリテーション科

医療・介護・予防分野のリハビリに対応 患者の動作を分析し機能障害を改善へ

リハビリテーション科は、患者の能力を最大限に引き出すために姿勢や動作を詳細に分析することで問題点を絞り込み、患者一人ひとりのために適切なリハビリテーションを提供すること。リハビリテーション科は、入院中から退院後まで継続して担当できるような作業療法士が継続して担当できるような配属、カンファレンスを定期的に行うこと、整形外科や内科の医師、他職種と連携を共有し、患者が元の生活に返るだけでなく退院後に心豊かな生活ができるよう努めている。令和元年11月より心大血管疾患リハビリテーションを開始。令和3年11月に訪問リハビリテーションを開始し、多くの患者のリハビリをサポートしている。

リハビリテーション科では、患者の能力を最大限に引き出すために姿勢や動作を詳細に分析することで問題点を絞り込み、患者一人ひとりのために適切なリハビリテーションを提供すること。リハビリテーション科は、入院中から退院後まで継続して担当できるような作業療法士が継続して担当できるような配属、カンファレンスを定期的に行うこと、整形外科や内科の医師、他職種と連携を共有し、患者が元の生活に返るだけでなく退院後に心豊かな生活ができるよう努めている。令和元年11月より心大血管疾患リハビリテーションを開始。令和3年11月に訪問リハビリテーションを開始し、多くの患者のリハビリをサポートしている。



内科副部長
佐々木 健一先生

2004年京都大学医学部卒業。同大学大学院医学研究科修了。日本内科学会総合内科専門医、日本救急医学会救急専門医として一般診療から専門診療まで幅広く提供。病院内部診療の高度な知識も有する。医学博士。

内科

総合診療から専門治療まで人材豊富 「総合病院にも引けを取らない」内科

同院の併診制を支える内科は、高い総合診療技術を持つロフェッショナルを擁しながら、呼吸器・循環器・消化器・泌尿器・骨粗しょう症など、各専門診療を提供できる人材も多数そろい、高齢化が進む地域のニーズに応える。

むねのニーズにしっかりと応える。また同院ならではの「併診制」は、内科得意とする一方、各医師が呼吸器・循環器・消化器・泌尿器など各専門分野を持つことが、同院の特色だ。

「施設面の拡充が完了した現在、今後10年間はスタッフのクオリティを上げていく。さらなる先きを強力に推進していきま。職員一同、当院の理念と基本方針に則り、より良い医療をめざし向上し続けてまいります」

院内リニューアルについて紹介

2020年、最良の診療環境をめざし全面リニューアル完了 リハビリ室から病室まで各施設・設備がより便利に

同院では2020年、社会の高齢化に伴う整形外科手術の増加により、手狭になった施設を増改築＆全面リニューアル。手術室や診療室はもちろん、ニーズが高まるリハビリテーション室を2倍に拡張し、心療リハビリの環境を整えた。また病室や廊下、屋上をリハビリにも使用できるよう拡大・新築するなど、入院時の利便性を大幅にアップ。救急医療から手術・入院治療、日常の診療・リハビリテーションまで、誰もが安心してかかる患者ファーストの診療環境が整った。



リニューアルされた施設受付。患者の待機時間も短縮されている



副院長
山田 明先生

1989年大阪医科大学医学部卒業。2016年より副院長を兼任。一般外科から消化器外科、整形外科まで対応する日本外科学会外科専門医。大腸・肛門科や腎がんの専門医でもあり、知識・技術の習得に努めている。

外科

さまざまな外科的疾患の診療、治療に対応 病態に応じた「オーダーメイド」な診療を提供

経験豊富な外科医師があらゆる外科的疾患の診療、手術を行う。小回り、小回りが利く診療環境を生かした「オーダーメイド」な対応が特徴的。内科の併診制やリハビリテーション科との連携で、診断から手術まで安心して治療を受けられる体制が整う。

だからこそできる、患者一人ひとりに合わせた「オーダーメイド」の治療。手術を提供しているのが特長だ。さらに、基礎疾患を持つ患者に対しては内科医師とともに診療する併診制を採用。高齢患者の臨床期間が長くならないよう術後早期から、リハビリテーション科とも連携した診療を提供する。地域の方々に質の高い医療を提供したい。そのため日々最先端の医療を学び、ここで手術を受けて良かったとめざし日々研鑽を重ねる。



スタッフの研修体制も強化し、患者に合わせたオーダーメイドの診療を提供している

医療法人社団 北須磨病院
TEL: 078-743-6666
所在地: 神戸市須磨区東白川台1-1-1
駐車場: 有
休診日: 日/祝
MAP: P000 0-0
LINK: P000